

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：32660

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13474

研究課題名（和文）PTAの学際的研究の試み 歴史・文化・当事者の視覚から

研究課題名（英文）An Effort to Study PTAs Utilizing an Interdisciplinary Approach: From the Perspectives of the History, the Culture, and the Parties Involved

研究代表者

竹尾 和子 (Takeo, Kazuko)

東京理科大学・理学部第一部教養学科・准教授

研究者番号：30366421

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトは、近年、議論が活発化しているPTAに関する、教育心理学と法学・歴史学による学際的理解を試みた。プロジェクトの骨子として、沖縄に位置する6件の単位PTAでのフィールド調査を行った。6校の単位PTAにおける当事者の心理や活動に関するデータ、および、その周辺から得られた史料に基づく分析を通して、文化・歴史的な文脈の中で構築された地域社会システムの一部としてのPTAといった、PTA理解のための理論的枠組みが見いだされた。また、PTAの加入方法等をめぐる訴訟の分析、PTAの法的・社会的な位置づけについての学問史的整理、石川県のPTA関係史料を素材とした歴史的研究なども行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、自動入会の是非、強引な役員、業務の過大な負など、メディアを中心とした、PTAに関する議論が盛んになされてきた。PTAは保護者と教師の共同活動として、児童・生徒の発達に影響を与えうる存在であるにもかかわらず、その学術研究は十分とは言い難い。

本研究における、当事者の心理からのアプローチとPTAの歴史からのアプローチによる、地域社会システムとしてのPTAの解明は、PTAを中心とする、地域社会、文化、歴史、人々の発達と心理を含んだ、システム論的理解としての、学術的意義が大きい。同時に、それは、PTAの今後を模索するPTA当事者に役立つ知見を提供するという点において、社会的意義も大きいだろう。

研究成果の概要（英文）：We sought an interdisciplinary understanding of the PTA, an organization evoking recent vigorous discussions, from the perspectives of educational psychology, law, and history.

Our field work took place in Okinawa, as we studied six school PTAs. Each school's circumstances differed in a variety of locales (e.g. main island or remote island, and urban or rural area) and by history (long-established or new). We analyzed the psychology and activity of the participants in the six school PTAs as well as histories obtained in their communities. We created a theoretical framework to understand PTA as part of a system established in historical and cultural context of each's local community. Similarly, we analyzed lawsuits resulting from participation in the PTAs; reviewed legal and social positions of the PTAs from the viewpoint of academic history; and conducted historical research on the PTA in Ishikawa Prefecture from relevant historical documents.

研究分野：教育心理学

キーワード：PTA 教育心理学 歴史学 地域社会システム

1. 研究開始当初の背景

PTA は、終戦直後から結成されはじめ今日にいたる。しかし、この 10 年間、急激に、メディアでは PTA のあり方が取り上げられ、議論されるようになった。中でも、PTA における自動入会の是非、強引な役員・委員決め、業務の過大な負担と改善の先送り、といった PTA の問題が取りざたされていた。PTA は、保護者と教師の共同活動の場である。児童・生徒にとっても最も身近で重要な他者が集う PTA は、児童・生徒の発達に何らかの影響を与えることは想像に難くない。

一方、PTA の学術研究に関しては、PTA 史に関する総論的な研究はあるものの (PTA 史研究会編, 2004) 教育心理学的実証研究は僅少である。研究開始当初においては、国内で明石ら (1995) の PTA 経験に関する質問紙調査研究以外は見当たらず、国外では 15 本程度の論文が検索されたが、いずれも学術的研究の域には達し得ない (国外の PTA の先行研究は、2015 年の竹尾・戸田の企画による PTA に関するシンポジウムで検討された)。しかし、PTA が文字通り親と教師の共同の場であるならば、PTA が子どもの発達への直接的、間接的影響は計り知れず、PTA 問題の解決に有効な知見を提供しうる学術的研究は急務である。

2. 研究の目的

終戦直後から始まった日本の PTA の歴史的変遷とその帰結としての現在の姿を、教育心理学と法学・歴史学からの複眼的に理解することを目指す。具体的には、国内の小中学校に付随する単位 PTA におけるフィールド調査 (心理学的調査と歴史学的調査) を通して、それぞれの文化的文脈に埋め込まれた PTA の歴史的変容とその帰結としての現 PTA 組織、及びそれに関わる当事者の心理や発達を、歴史的データと心理学的データを往還しつつ実証的に明らかにしていく。調査・実験計画および分析や解釈においても、心理学と歴史学の両領域からの検討に加えて、日本、アメリカ、イギリスの研究者による討論などを含んだ、複眼的理解を目指す。以上により、現 PTA が抱える諸問題を歴史、文化、当事者が織りなすシステムの一現象として捉え、問題の本質と根本的な解決策を見出していく。また、強制加入など、PTA をめぐる法的な問題について整理する。

3. 研究の方法

3.1. PTA の概要に関する理解

文献研究

シンポジウムの開催による PTA への学術的・学際的理解

メディアによる PTA 議論の動向研究：雑誌・新聞研究

- 3.2. フィールドワーク：沖縄県内の 6 校における単位 PTA で、PTA 当事者へのインタビュー、資料収集等を行った。
- 3.3. 質問紙調査：質問紙調査：大学生を対象に、幼稚園～高等学校時代における、PTA の経験や記憶に関する質問紙調査を実施した。

4. 研究成果

- 4.1. PTA の概要に関する理解（文献研究 / シンポジウムの開催による PTA への学術的・学際的理解 / メディアによる PTA 議論の動向研究：雑誌・新聞研究）

- 4.1.1. PTA を教育心理学的に明らかにするための前提として、「PTA とはそもそも何なのか？」という問いをたて、PTA の規模、PTA の成立の背景、PTA の社会的位置（社会教育関連団体としての PTA）と法的根拠、PTA のジェンダー格差、PTA の今日の問題（強制的な加入・役割分担・活動内容）、PTA 改革の方向と可能性の 7 つの視点から PTA の輪郭を整理した。その成果は主に、以下の著書にまとめられている。

竹尾和子 2019 「PTA とは何か？ 家庭と学校をつなぐ巨大組織 PTA を可視化する」竹尾和子・井藤元共編『ワークで学ぶ学校カウセリング』ナカニシヤ出版。

竹尾和子・神野潔 2016 「PTA の現状に関する学術的可視化の試み - 教育心理学・法学・歴史学の視点から -」東京理科大学紀要（教養篇）48 号, 35-52 頁。

神野潔・竹尾和子 2017 PTA の今日の問題 「任意加入」・「強制加入」に関する法学的・歴史学的考察 東京理科大学教職教育研究 2 号 15-24 頁

- 4.1.2. 本研究プロジェクトの一環として、PTA への学術的理解・学際的理解を目的としたシンポジウムを開催した。中でも、2016 年開催の国際学会におけるシンポジウムでは、パネラーとして、日本、アメリカ、イギリスからの研究者が登壇し、PTA 現状に関する国際的、学際的視点に立った議論がなされ、日本の PTA の現状とその歴史的経緯の輪郭と特殊性が浮き彫りになった。このシンポジウムの中身と成果、更にそこから展開される議論は、本シンポジウムの登壇者の共同執筆による下記の論文にまとめられた。

Takeo, K., Jinno, K., Suzuki, S., Lewis, C., & Omi, Y. (2016). Structures and Issues of PTA in Socio-Cultural Context in Japan, USA, and UK — Research Presented and Future View Discussed at 2016 ICP Symposium. *Studies in liberal arts and sciences*, 49, 183 - 208.

4.1.3. メディアによるPTA議論の動向研究：雑誌・新聞各社のPTAに関する記事を収集し、分析を行った。現在、分析途中であるが、最近では、PTAの強制・自動入会の是非を扱う記事から、非入会の家庭に対するPTA会員の対応のあり方の是非や、従来のPTAに関する一般の議論を踏まえたPTA活動における新しい取り組みのあり方が扱われるといった、傾向がうかがわれた。しかし、これらの議論に、どの程度の一般性があるか、または、どの地域のPTAに当てはまるかということは、次に述べる沖縄のフィールド調査を踏まえれば、慎重に検討する必要があることも見出された。このようなメディアによる議論の一般性と特殊性も含め、30年間のメディアにおける議論の推移について、今後、更なる質的分析を進めていく。

4.2. 沖縄フィールドワーク

4.2.1. 沖縄県内のいくつかの地域における単位PTA（5件の小学校単位PTAと、1件の中学校単位PTA）で、PTA当事者へのインタビュー、観察、資料収集等を行った。6校は地域（本土と離島）、歴史（創立100数年以上を迎える学校と新設の学校）、立地条件（例えば、米軍基地隣接の学校）等において実に多様な状況にあった。これらの小学校にあるPTAを調査フィールドとし、PTA役員を対象に、PTAの歴史や組織、活動内容や当事者の心理についてインタビューを行った。これにより、これらの要因の相互作用関係を検討した。その結果、6件のPTAに共通する特徴と、異なる特徴が見出された。共通する特性は、沖縄の文化的特殊性が反映されたものとして理解されうる。一方、異なる特徴は、それぞれのPTAの地理、歴史、環境といった状況要因によるもと考えられるよう。これらの共通点と特殊性、また、その背景としての社会文化的、および、歴史的要因については、以下にまとめられている。

竹尾和子 (2017). PTAの学際的可視化の試み 歴史・文化・当事者の視覚から、教育と医学, 766号, 298-306.

竹尾和子 (2017). 沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々 — 「子育て・教育の共同的営み」としてのアロマザリングとPTA 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, 32

神野潔 (2017). 戦後沖縄におけるPTA活動の展開 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, 32

4.2.2. また、この研究成果を踏まえ、PTAを理解する理論的枠組みとして、「地域社会システムの一部としてのPTA」を提唱し、この理論的枠組みに基づき、6件の単位PTAの共通性と多様性を整理した。この枠組みでは、地域

社会はその歴史性を有するとともに、現在においても、他の地域社会からの人びととの相互作用も含みつつ、その文化性をも保持し、PTAはそのあり方の一端を担っている、と想定する。あるいは、PTAは、共同体、家庭、学校、当事者の紐帯として、地域社会の縮図としても捉えうる。今後は、更に、「地域社会システムとしてのPTA」という捉え方に基づき、多様なPTAを分析し、全国の多様なPTAを捉えるための理論的枠組みとして検討し、精緻化していきたい。「地域社会システムとしてのPTA」に関する研究成果の詳細は、下記の文献に収められている。

竹尾和子 2019 地域社会システムとしてのPTAという構想 東京理科大学紀要(教養編)第51号 1
- 18 .

4.3 質問紙調査の実施

4.3.1 2018年度に大学生を対象に実施したPTAに関する質問紙調査の結果を分析し、高校生までの児童・生徒としてのPTA体験者にとってのPTAの経験や記憶の中身を明らかにし、そこから、子ども時代のPTAの記憶や、PTAの子どもにとって意義について分析した。その結果の一部は、以下に紹介されている。

竹尾和子 2019 「PTAとは何か? 家庭と学校をつなぐ巨大組織PTAを可視化する」竹尾和子・井藤元共編『ワークで学ぶ学校カウセリング』ナカニシヤ出版 .

4.4 PTAの文化的考察

日本におけるPTAの文化的特質やそれに起因すると考えられるメディアを中心に展開されてきた議論の構造を「差の文化心理学」の観点から明らかにした。更に、その成果を踏まえ、アクティブラーニング等の新しい教育方法の導入と実践に与える可能性について考察した。

竹尾和子 2020 「『日本的な何か』 文化を扱う心理学を通して教育の場を理解する」竹尾和子・井藤元共編『ワークで学ぶ発達と教育の心理学』ナカニシヤ出版 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 竹尾和子	4. 巻 51
2. 論文標題 地域社会システムとしてのPTAという構想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京理科大学紀要（教養編）	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 神野潔 竹尾和子	4. 巻 2
2. 論文標題 PTAの今日的課題 「任意加入」・「強制加入」に関する法学的・歴史的考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京理科大学教職教育研究	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 竹尾和子	4. 巻 766
2. 論文標題 PTAの学際的可視化の試み 歴史・文化・当事者の視覚から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 298-306
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 KazukoTakeo, Kiyoshi Jinno, Sawako Suzuki, Charlie Lewis, and Yasuhiro Omi	4. 巻 49
2. 論文標題 Structures and Issues of PTA in Socio-Cultural Context in Japan, USA, and UK - Research Presented and Future View Discussed at 2016 ICP Symposium-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Studies in liberal arts and sciences	6. 最初と最後の頁 183 - 207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 神野潔・竹尾和子	4. 巻 第2号
2. 論文標題 PTAの今日的課題 「任意加入」・「強制加入」に関する法学的・歴史学的考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京理科大学教職教育研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 竹尾和子
2. 発表標題 那覇市のA小学校単位PTAに見られる人々の組織・役割・人間関係の作り方
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 神野潔
2. 発表標題 戦後沖縄におけるPTA活動の展開
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuko Takeo
2. 発表標題 Present state and issues of PTA in Japan - Focusing on conflicts between diversity of the PTA-active mothers' lifestyles and rigidity of the PTA organization
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kiyoshi Jinno
2. 発表標題 The historical consideration about mandatory participation in PTA in Japan
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 竹尾和子・井藤元	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ワークで学ぶ学校カウンセリング	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 ナカニシヤ出版	

1. 著者名 竹尾和子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 9ページ
3. 書名 教育と医学第65巻4号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神野 潔 (Jinno Kiyoshi) (40409272)	東京理科大学・理学部第一部教養学科・准教授 (32660)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	Lewis Charlie (Lewis Charlie)		
研究協力者	鈴木 さわこ (Suzuki Sawako)		